



> 高雄園區改名式典(9月2日)

高雄園區展望

飛び立つハイテクノロジー

台湾政府機関行政院は2004年7月27日に路竹園區を高雄園區と名を改め、本管理局は2004年9月2日高雄県政府・高雄県議会・近隣郷鎮公所・近隣郷鎮代表会や周辺大学専門学校関係者等を招待し、高雄園區にて改名式典を執り行った。正式に国内外どちらにおいても高い知名度を得ている「高雄」を園區名にし、園區の名称と高雄港・高雄空港等国际的に有名な名称との結びつきを強め、知名度を上げていきたい。

企業投資誘致

2004年高雄園區では14社が駐在申請許可され、これまで累計30社となり、集積回路関連2社・オプトエレクトロニクス5社・バイオテクノロジー4社・精密機械14社・コンピュータ周辺1社・その他4社、合計投資総額661.4億円(投資予定されている 矽統(Silicon Integrated Systems)総投資予定額3,040億円、会社の投資政策調整により暫時統計に入れない)。萬潤科技(All Ring Technology)は2004年2月に量産を始める、量産開始第一社目の企業となる。その他2004年末までに工場建設する企業は7社ある。2004年展茂光電(Allied Material Technology)・瑞儀光電(Radiant Opto-Electronics)と鑫科材料(ThinTech Materials Technology)等のオプトエレクトロニクスデバイスパーツ組み立てや材料企業の誘致に成功し、加えて奇美電子(CMO)は50~60ヘクタールもの土地に次世代TFT-LCD工場建築を予定している。高雄園區におけるオプトエレクトロニクス集積の雛形が完成しつつあると言える。高雄園區は必ず南台湾のオプトエレクトロニクス集積を持つ園區の中心としてその働きを果たすであろう。展茂光電株式会社(Allied Material Technology)は480億円を投資し第五代カラーフィルター工場を建設し、2004年9月23日台湾現陳總統がその工場起工式に自ら臨み、これは高雄園區内で創めて投資額が320億超える投資案となる。



> 展茂(Allied Material Technology)工場起工式式典台湾總統臨む(9月23日)

通信情報技術センター

政府機関交通部より通信情報技術センターを高雄園區に設置することを発表してから、積極的に相関準備が行われ、2004年5月通信情報技術センターより一部の人員がセンターの立ち上げに先立ち、高雄園區の臨時事務所に駐屯し始め、10月には第一期標準型工場で作業を開始している。2004年末まで駐屯人員は31人になり、今後2から3年のうちに専門職人員を100~120人にまで増やし、1ヘクタールの借地に実験室や行政センターを建築していく予定である。

政府機関の通信情報技術センターが高雄園區設置が強い誘引となり、相関通信情報産業の駐在を引き寄せている。通信情報産業は集積回路産業と映像ディスプレイ産業に続き、台湾の第3つ目の3.2兆億元産業となり、高雄園區が漸次通信情報技術センターを中心に通信情報園區として発展し、通信情報産業が台湾において南北両中心円的に発展するよう促していきたい。



園区建設

優れた投資環境建設は現段階高雄園区が最も重要としている目標である。2004年に完成した汚水処理第一期工事・第一基目高架貯水タンク(3,000トン)・一期一区箇工業区域開発工事・台一号線(高速道路)とRW30-1道路交差路工事・出入口景観改善工事・第一期標準型工場(40単位)・路北変電気東側道路工事・RE20 1道路と洪水防止溜池C工事等がある。更に、積極的に第一期住宅区域開発工事・一期職員住宅新築工事(建設・設計)・洪水防止溜池B工事・第一基目3,000トン高架貯水タンクと配水池の景観工事・汚水処理場第一期景観工事(周辺緑地化含む)等がある。



> 高雄園区土地開発



> 高雄園区標準型工場



> 高雄園区汚水処理場



> 高雄園区高架貯水タンク